

腕試しテスト 《解答》

バックアップ・リカバリ



腕試しテスト《解答》

Lesson1》

1 章：障害対応の基礎知識

次のうち、復旧作業でバックアップ・ファイルを使用することが考えられる障害をすべて選択してください。

- 【A】ユーザー・エラー
- 【B】リスナー障害
- 【C】インスタンス障害
- 【D】メディア障害

解答

Lesson1：【A】、【D】

Lesson2》

1 章：障害対応の基礎知識

障害が発覚した際にデータベース管理者が最初に参照すべきデータベースの関連ファイルとして、適切なものを 1 つ選択してください。

- 【A】アラート・ログ・ファイル
- 【B】イベント・ログ・ファイル
- 【C】データベース監査ファイル
- 【D】トレース・ファイル

解答

Lesson2：【A】

Lesson3》

2 章：RMAN の基礎知識、RMAN の構成要素

RMAN によるデータベースへの接続とチャンネルの割り当てについて、適切なものを 2 つ選択してください。

- 【A】チャンネルの設定は、データ・ディクショナリ内の RMAN リポジトリに格納される。
- 【B】チャンネルにはデフォルト設定がされており、管理者が設定していない場合はデフォルトの設定通りに動作する。
- 【C】CONFIGURE CHANNEL コマンドを使用すると、変更したチャンネル設定を保存できる。
- 【D】LIST コマンドを使用すると、チャンネルの設定情報を確認できる。

解答

Lesson4：【B】、【C】

Lesson4》

3章：ファイルの多重化、アーカイブ REDO ログ・ファイルの設定

メディア障害に対する備えについて、適切なものを2つ選択してください。

- 【A】データベースを異常終了しにくくするために、オンライン REDO ログ・ファイルを多重化する。
- 【B】アーカイブ・モードの切り替えは、データベースをオープンした状態で行う。
- 【C】アーカイブ REDO ログ・ファイルを多重化するためには、複数の出力先を設定する。
- 【D】データベースを異常終了しにくくするために、制御ファイルを多重化する。

解答

Lesson3：【A】、【C】

Lesson5》

3章：バックアップ概要

物理バックアップ取得時に対象となるファイルについて、適切なものをすべて選択してください。

- 【A】データファイル
- 【B】オンライン REDO ログ・ファイル
- 【C】制御ファイル
- 【D】アーカイブ REDO ログ・ファイル

解答

Lesson9：【A】、【C】、【D】

Lesson6》

3章：オフライン・バックアップ

RMAN を使用したデータベースのオフライン・バックアップについて、適切なものを1つ選択してください。

- 【A】オフライン・バックアップはデータベースをマウント状態にして取得する。
- 【B】ARCHIVELOG モードではオフライン・バックアップを取得できない。
- 【C】オフライン・バックアップは各バックアップ・ファイルに記録されているチェックポイント SCN が同一である。
- 【D】バックアップの対象はデータファイルとオンライン REDO ログ・ファイルである。

解答

Lesson5：【C】

Lesson7》

3章：オンライン・バックアップ

RMAN を使用したデータベースのオンライン・バックアップについて、適切なものを2つ選択してください。

- 【A】データファイルのオンライン・バックアップを自動的に取得できる。
- 【B】各ファイルのオンライン・バックアップを異なるタイミングで取得できる。
- 【C】ARCHIVELOG モードではオンライン・バックアップを取得できない。
- 【D】制御ファイルの自動バックアップのファイル名にはデータベース ID が含まれる。

解答

Lesson6：【B】、【D】

Lesson 8》

3 章：障害復旧に必要なファイルの管理

RMAN を使用したバックアップ・ファイルの保存方針について、適切なものを 2 つ選択してください。

- 【A】バックアップ後に何日間保存するかを、RECOVERY WINDOW で設定できる。
- 【B】DELETE OBSOLETE コマンドを実行すると、保存方針から外れたバックアップを削除できる。
- 【C】世代数で保存したい場合は、保存方針を REDUNDANCY で設定する。
- 【D】保存方針を満たすためにバックアップが必要なファイルを確認することをクロスチェックと言う。

解答

Lesson7：【B】、【C】

Lesson 9》

4 章：完全リカバリ、不完全リカバリ

メディア障害からの復旧について、適切なものを 2 つ選択してください。

- 【A】完全リカバリを行う場合、破損したファイルをリカバリした後でリストアする。
- 【B】完全リカバリを行う場合、最新の制御ファイルが必要となる。
- 【C】不完全リカバリを行う場合、破損したファイルのみをリストアする。
- 【D】不完全リカバリを行った後は、RESETLOGS 操作を行ってデータベースをオープンする。

解答

Lesson8：【B】、【D】

Lesson 10》

5 章：ケーススタディ

データの損失が発生しないケースについて、適切なものを 2 つ選択してください（どのケースもバックアップ・ファイルは取得済みであることが前提です）。

- 【A】NOARCHIVELOG モードで運用中、CDB ルートのユーザーデータ用表領域のデータファイルに障害が発生した。
なお、オンライン REDO ログ・ファイルは 2 グループで運用しており、CURRENT のログ順序番号はバックアップ取得時は 50、障害発生時は 52 であった。
- 【B】ARCHIVELOG モードで運用中、CDB ルートのデータファイルに障害が発生した。アーカイブ REDO ログ・ファイルは出力先からは削除されていたが、バックアップを取得していた。
- 【C】多重化したオンライン REDO ログ・ファイルが全損した。障害が発生したオンライン REDO ログ・ファイルのステータスは CURRENT であった。
- 【D】制御ファイルを多重化して運用していたが、どの制御ファイルを使用してもデータベースのマウントに失敗してしまった。

解答

Lesson10：【B】、【D】